

] î0 5r •

KAWASAKI STEEL GIHO

Vol.30 (1998) No.2

and its Estimation Method



要旨

ステンレス鋼を建材に使用した場合の腐食挙動を詳しく調べるために、全国各地での大気暴露調査に加えて、実建築物での発錆調査

Table 1 Chemical compositions of steels used

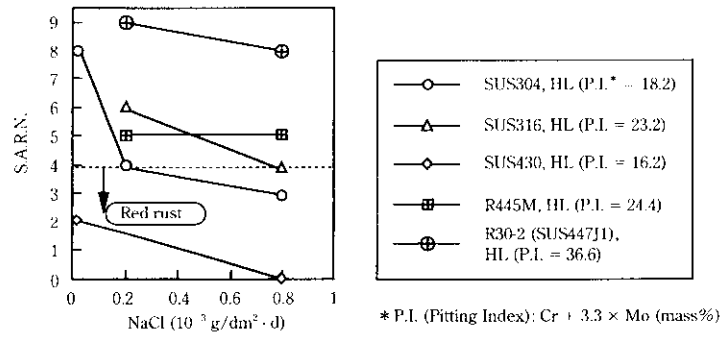
	C	Si	Mn	Cr	Ni	Mo	Others
SUS447J1	0.004	0.19	0.10	30.0	0.2	2.0	Nb, Ti
R445M	0.020	0.49	0.15	22.0	0.2	0.75	
SUS316	0.060	0.51	1.30	16.6	12.5	2.0	—
SUS304	0.070	0.58	1.10	18.2	8.5	—	—
SUS430	0.060	0.40	0.65	16.2	—	—	—

2.2 実建築物の発錆調査

2.3.3 環境調査方法

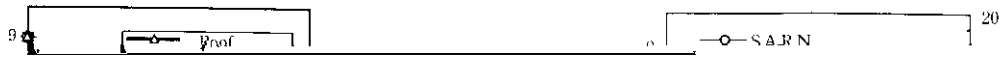
海から約 400 m 離れた位置にある実建築物の屋根部および軒部に使用された R445M (22%Cr-0.8%Mo) における発錆調査を行った。

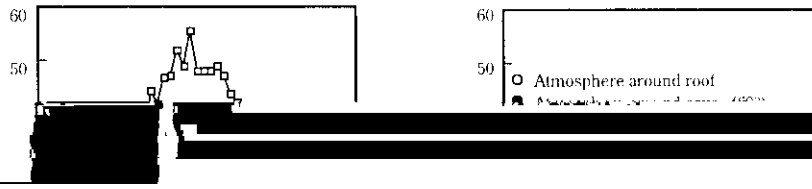
し、採取した付着物中の主に塩化物イオンなどの定量分析を行った。また、屋根部および軒部 (60°) における気温、湿度などの一日の経



Igaueno

Fig. 2 Relationship between rating number (S.A.R.N.) and NaCl concentration





たすにしたが、経路しやまくたす。SUS304 は、毎朝土曜で、紅色度があまほ増加した。その理由として、軒部は降雨によ

はほとんど外観上の変化は認められないのに対し、潮廻し油廻り洗済される機会が小さいところから、軒部では同の巻きこ

では赤さびが発生する領域となる。 (5) 厚根部と軒部の環境(温度、湿度)を測定した結果、軒部の
SUS447J1 (30%Cr-2%Mo) であれば、飛来海塩粒子量が多く、

みにより付着塩化物が多くなることが考えられる。